



別所憲法9条の会 たより

2026年1月 第208号

地球には82億人の人が住んでいて、アフリカに15億人(18%)、アジアに48億人(59%)。その他全部合わせて22%。西アジアとアフリカの一部を含む中東諸国16カ国には5億人弱。

日本から西に向かい、インドあたりまでは何となく想像できる。どんな顔立ち、どんな服装でどんなものを食べているのか。中東、アフリカの様子も見聞きはする。でも、例えば彼らの料理はどんなものか。食への興味津々。…>そこでだ！作ってみた！フムス=ひよこ豆のディップ。お豆、ごまそれぞれのペースト、にんにく、オリーブオイルを混ぜ合わせたもの。広い地域で食べられているけれども、特にレバント地域が有名。レバントとは狭義でシリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、パレスチナを指す。フムスを食しながら、しばし遠地のレバントへ思いを馳せる。

年初の「たより」で冒頭からいittai何の話をしとるんや！ということではありますけれど、おいしいものはおいしいですね。作り方と感想は <https://bessho9.info/wp/hummus/> をごらんください。

[在特会]など日本には何年も前から差別団体はあったけれど、ここ数年の排外行動はことさらひどい。特に2025年7月の参議院議員選挙で参政党が国会に14議席を得てからはアレコレの差別団体が頻繁に差別デモを開催している。あちらこちらの市会議員が市民を煽る。議員が差別の音頭を取るとは！

高市首相や国会議員が差別発言をきっぱり否定することもない。排外勢力を削ぐことに注力するどころか、同調しさえする。自国の国会議員の東洋人差別発言をはっきりと否定したフィンランド首相を見習ってもらいたい、とないものねだり。

(こ)

1月の例会—11月に引き続き、映画を鑑賞します

日 時 1月26日(月) 13:30~16:00

場 所 長池公園自然館 会議室 会場・資料代 300円

たまには温かいヒューマンドラマを見ようよと企画しました

映画の公式サイトです

- スマホでQRコードを読み取ってください
- 電子版ではQRコードをクリックしてください



『パリ タクシー』 2022年フランス制作(91分) 監督 クリスチャン・カリオン

中年タクシー運転手のシャルル。家族を愛しながらも借金のせいで働きづめ、おまけに免停寸前の崖っぷち。だからちょっぴり不愛想。そんな彼が乗せた客は、住み慣れた家を引き払い、介護施設へ向かう92歳の老婦人マドレーヌ。時代に翻弄された彼女は、思い出の街に寄り道してほしいという。

マドレーヌのわがままに、渋々ながらも付き合うシャルル。彼女の数奇な人生を辿るパリ通りの旅に付き合わされる驚きの顛末を、ユーモアを織り交ぜ心温まるタッチで描き出す。

★木村拓哉、倍賞千恵子主演の邦画『Tokyoタクシー』はこの映画の翻案です。

◆通常国会開催に向けて、政治の動向などについて意見交換もしましょう！

「台湾有事」発言による中国との摩擦、円安、米価高騰にもかかわらず減産、「スパイ防止法」、外国人排斥に同調、裏金議員の登用、ほかにもまだまだある高市政権の悪政…いろいろありすぎか。

堀之内駅前での宣伝

1/19(月) 10:00~11:00
大軍拡・戦争への道反対

八王子アクション

1/18(日) 14:00~
JR八王子駅前

19日議員会館前行動

1/19(月) 18:30~
衆議院第2議員会館前

新たな戦前にするな！スパイ防止法反対！

いのちの音色ライブ

歌と語りでヒロシマ・ナガサキを伝える！

1/24(土) 開演 14:00~16:00 開場 13:40

北野台自治会館 八王子市北野台4-25-1

バス便：京王線北野駅、またはJR八王子みなみの駅より

14:00~ 上田紘治さんのお話し(3歳時広島被爆体験)「被爆の実相」

14:30~ ライブ：歌と語り 中村里美 ギターと語り 伊藤茂利

無
料
聞
き
に
行
つ
て
み
ま
せ
ん
か



イベントのページへクリック！

新年特別寄稿

軍拡と縁を切ろう。核兵器をおさらばしよう。

1. 大軍拡はどこまできたか

22年の安保三文書は「敵地攻撃能力の保有」「武器輸出立国」などとならび、軍拡財政の目標を具体的な数値で示しました。それによれば、23から27年の5カ年で軍事費の総額を43兆円に、また27年度にはGDP比2%にするというのです。

こうして「岸田大軍拡」がスタートしました。ところがその速度は、三文書の予定を上回っていました。26年度予算案で、軍事費は史上最高額の9兆円余になります。もうこのまま増額しなくとも、27年度までに43兆円に到達することが確約されました。

GDP比1%枠(76年)は、安倍内閣ですら守らざるをえませんでした。それくらいの「重み」があった数字のはずです。それを三文書で倍に引き上げたのですから、高市内閣は、27年度まではGDP2%枠のなかでいかなければなりません。そうでなければ「枠」を決めた三文書の顔が立ちませんね。

ところでトランプは、GDP比3.5%の軍事費を支出するよう、日本に要求しているらしいのです。日本の予算は米大統領が決める、と誤解しているのでしょうか。しかしこの誤解には、言いなりだった歴代政府の側にも責任があります。「誤解を与えたとすれば申し訳ない」という例の文句は、こんなときのため。「誤解を与えたとすれば申し訳ない、日本の予算は日本の国会で決めるのだ」と、首相はきっぱり断るべきです。

2. 大軍拡は、わたしたちの生活を破壊する

大軍拡という裏付けをえて、日本の「戦争をする国」化が進められてきました。

横須賀などを母港にする護衛艦には、トマホークが配備されようとしています。また熊本市内の自衛隊駐屯地には、地対艦ミサイルが置かれようとしています。いずれも中国本土を射程にいた長距離ミサイルです。こんな物騒なものが置かれた町は、相手からの攻撃対象に選ばれるかもしれません。住民の「平和のうちに生存する権利」(憲法前文)を侵害するものです。

防衛省の有識者会議(25年9月)は、原子力潜水艦の建造を提案しました。原潜にミサイルを載せ、世界中どこからでも中国を攻撃できる海軍にするのでしょうか。しかしこの提案は無責任です。そもそも原潜は核のゴミの源泉。福島の汚染土すら置き場のない日本なのに、このうえ、耐用年限の切れた原潜からでる核のゴミをどこに捨てるのでしょうか。

3. 東アジアが核の共倒れをしてはいけない

高市内閣は、「台湾有事=存立危機事態」発言の火消しに追われています。しかし「覆水盆に返らず」で、口にしたらもとに戻らないのです。

それに首相が「従来の憲法解釈から変わっていない」と言い繕っても、台湾有事における日米共同作戦計画は、米軍と自衛隊の一体化した軍事行動を予定しています。首相が発言を実質的に撤回するのなら、日米共同作戦計画も、大軍拡も、そして安保条約も廃棄しなければならないことは明らかです。

いま東アジアは、世界でもっともはげしく軍拡が展開する地域の一つです。しかも核兵器を保有する四力国が角を突き合わせています。そういうぎりぎりの生活は、ここでやめませんか。東アジアの民衆が平和に暮らすため、核に依存するみせかけの安全(これを「核抑止」信仰といいます)と縁を切り、すべての関係国・地域(核兵器を保有しない日本・韓国・台湾・比・豪州もふくめて)が核兵器廃絶にすすまなければなりません。

そんななか日本が原潜をもつのは、「核の平和利用」という原子力基本法の原則を投げ捨てる意味します。それは核兵器の廃絶をめざし核兵器禁止条約(TPNW)に結集した世界の人々にたいする裏切りです。そればかりか、核の拡散を統制する不拡散条約(NPT)の力を弱めることになります。

官邸幹部による「非核三原則の見直し」発言も、これと同じ性質の問題です。とりわけ有事において「(米軍が日本に)核兵器を持ち込むこと」を許容すれば、それは東アジアにおける愚かな核軍拡競争を促すことになるでしょう。

